

アサヒガニ漁法（技術交流会）

1. 課 題

アサヒガニ漁法研修

2. 目 的

これまで宮古島周辺では底魚一本釣等により、アサヒガニが漁獲されることが何回かあり、（アサヒガニ漁を専門とする漁業者が存在しないこと等も踏まえて）アサヒガニは豊富な未利用資源である可能性を秘めている。今回の技術交流会では宮古から参加の2名の研修者が糸満のアサヒガニ漁業者から漁法を習得し、宮古に技術を持ち帰り、宮古での同漁業の可能性を探ることを目的とする。

3. 研 修 地

糸満漁業協同組合

4. 参 加 者

長 間 浩（伊良部町漁業協同組合）

渡真利 武（平良市漁業協同組合）

5. 研 修 期 間

平成4年12月2日～4日

6. 研 修 状 況

平成4年12月3日午前9時に糸満漁港に集合し、打ち合わせを行った後、10時に糸満漁協組合員玉城亀助氏の所有船「充丸（じゅうまる）4.11トン」に乗船し、漁場に向かった。当日の天候は晴で風も弱く、海上は凪の状態であった。

この日の漁場はルカン礁周辺であり、糸満漁港を出港後約50分で到着した。漁場の水深は98mで、底は砂質帯であった。

漁場到着後、浮標を投入した後、揚縄機より幹繩を送り出し、約15mの間隔でリング網を幹繩にスナッチフックを用いて接続していく。リング網にはマグロの血合肉等の餌をつける。1回の網数は90枚程であり、降ろすのに要する時間は20分程度である。投網終了後、2マイル程離れた海域で2回目の投網をおこなった。

漁船はGPS受信機（古野GP-3000）、カラー魚群探知機（同FCV-561）等の近代機器を装備している。また、全ての漁労作業は左舷前方で行われるが、作業者の手元の2本のステンレス

パイプと1本のロープで船速、前、後進、進行方向の操作ができ、更に足元のペダルで揚縄機の回転スピードが調整できるようになっており、作業者は座ったままの状態ではほとんどの作業が可能である。この漁船の改良については、両研修生とも非常に参考になったようである。

午前11時過ぎに投網作業を終了し、ルカン礁内に錨を降ろし、休憩、昼食をとった。当日の礁内は全く波がなく、快適な昼休みとなった。

午後2時に再び漁場に向かい、網揚作業を開始した。1回の網揚時間はおよそ35分程度であり、この日の収穫は2回の網入れで合計12kg程の水揚げであった。甲長12cm程の個体が最も多く、網に掛かった色の白い幼若個体は網から外した後即放流し、その他の個体は船の活魚槽に収容する。

午後3時半過ぎに網揚作業を終了し、糸満漁港へ帰港した。漁獲したアサヒガニは市内の海産物店に1,500～2,500円/kgで出荷するそうである。

終了後、糸満市内で懇親会をもち、玉城氏から色々と有意義な情報を頂いた。

アサヒガニは狭い範囲でコロニーをつくっているため、漁獲努力量と資源量は密接な関係をもち、同じ漁場を続けて使用できないとのことである。玉城氏はアサヒガニ漁場を20ヶ所以上もち、各漁場をおよそ月1回の割合で利用し資源保護に努めているとのことである。玉城氏曰く「良い漁場は息子にも教えん」ということで、いかに良い漁場を多くもち、1漁場あたりの漁獲努力量を少なくするかということが大切かを教えて頂いた。

7. 問題点及び次年度への展開

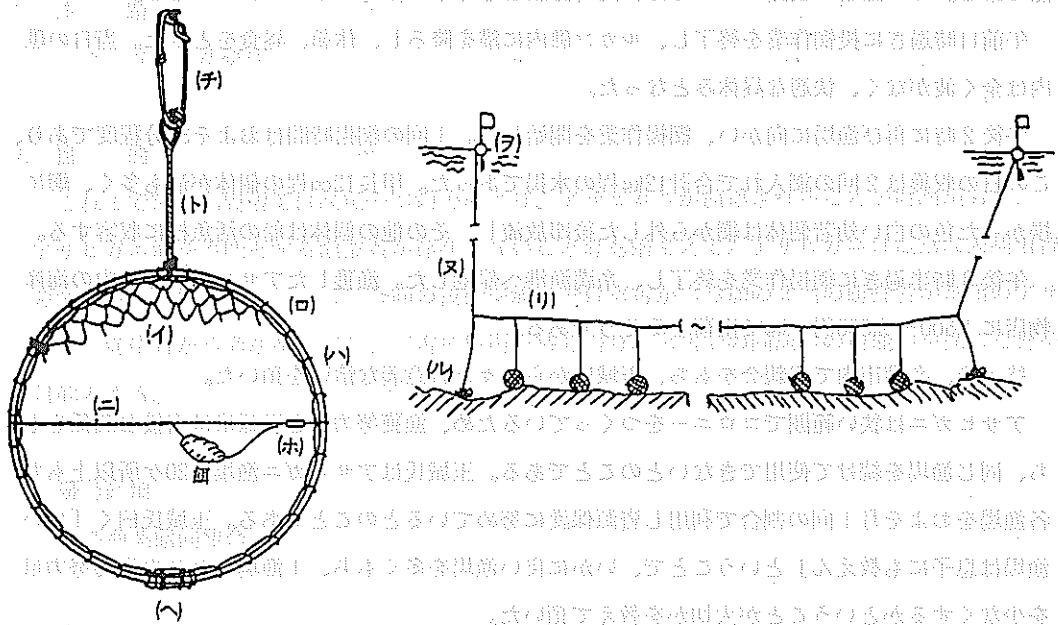
参加者は研修後、宮古においてアサヒガニ漁を数回実践しているが芳しい成果は上がっていない。渡真利氏の話では、「1匹も採れないということはあまりないが、漁獲量は平均すると5殻kgでアサヒガニだけでは漁業として成り立たない。」ということである。(漁獲物は市内の割烹に2,000円/kgで卸している。)

今後、他の漁の合間に多くの海域で網を入れ、宮古周辺のアサヒガニの分布状況を調査していくことが必要であると思われる。

調査項目	調査内容	調査結果	備考
アサヒガニの分布	宮古島周辺の海域	調査海域にアサヒガニの分布が確認された。	
アサヒガニの漁獲状況	宮古島周辺の海域	アサヒガニの漁獲量は平均5殻/kgであった。	
アサヒガニの資源量	宮古島周辺の海域	アサヒガニの資源量は調査海域に豊富に分布している。	
アサヒガニの漁獲方法	宮古島周辺の海域	アサヒガニの漁獲方法は網揚作業による。	
アサヒガニの漁獲時期	宮古島周辺の海域	アサヒガニの漁獲時期は調査海域に豊富に分布している。	
アサヒガニの漁獲場所	宮古島周辺の海域	アサヒガニの漁獲場所は調査海域に豊富に分布している。	
アサヒガニの漁獲量	宮古島周辺の海域	アサヒガニの漁獲量は調査海域に豊富に分布している。	
アサヒガニの漁獲単価	宮古島周辺の海域	アサヒガニの漁獲単価は調査海域に豊富に分布している。	
アサヒガニの漁獲コスト	宮古島周辺の海域	アサヒガニの漁獲コストは調査海域に豊富に分布している。	
アサヒガニの漁獲利益	宮古島周辺の海域	アサヒガニの漁獲利益は調査海域に豊富に分布している。	

資料1 研修生001 研修生002 研修生003 研修生004 研修生005 研修生006 研修生007 研修生008 研修生009 研修生010

漁具の構成図



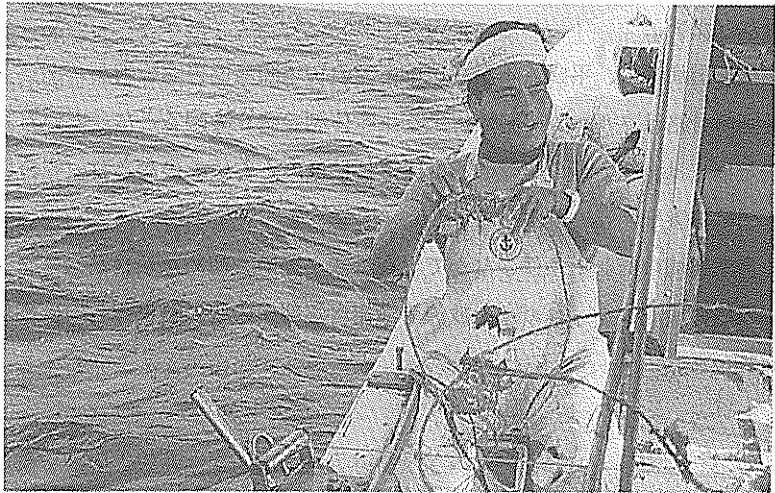
符号	名称	材質	大きさ又は太さ	目及び規格	掛目	長さ又は重さ	仕立上りの長さ、数量	備考
図一—一	イ	網	ナイロン	10本	7.5節	14目	17目	1枚 総目数457目
	ロ	枠	鉄	4 $\frac{7}{8}$ "			160cm	輪直径50cm
	ハ	縁どり糸	スパンナイロン	12本			約2m ~2.2m	1本 10番線使用
	ニ	針	ステンレス 20番線	0.88 $\frac{7}{8}$ "			約1m	1本 50cmの二重(餌かけ用)
	ホ	ゴム管	軟質ゴム	外径4 $\frac{7}{8}$ "			3cm	1個
	ヘ	ロック	銅	ダブル ホール			2cm	1個
	ト	枝組	ポリプロピレン	4 $\frac{7}{8}$ "			25cm	1本 PGロープ、輪網の間隔15m
チ	スナッチフック	鋼		2.6 \times 100 $\frac{7}{8}$ "			1個	
図一—二	リ	幹組	ポリプロピレン	4 $\frac{7}{8}$ "			1,500~ 2,000m	PGロープ
	ヌ	浮標組	"	"			2本	" 水深の約2倍
	ル	碇	コンクリート ブロックか自然石				2~3kg	2個 半ブロック
	ヲ	浮標	発泡スチロール					2個 旗は赤か黒 竿はファイバー

※沖縄県の漁具、漁法(財)沖縄県漁業振興基金、沖縄県水産試験場1986年刊より抜粋



... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...

... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...



... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...
... (faded text) ...



... (faded text) ...